

1月8日 三学期始業式

新年を迎えて、はじめて全校のみんなが集まりましたので、「おめでとうございます」の挨拶をしましょう。「明けましておめでとうございます。」さあ、今日は3学期の始業式です。冬休みの生活から、規律ある学校生活へ気持ちを切り替え、新しく始まる学期への希望と自覚をもつための式です。



世間では、新型コロナウイルスの勢いがおさまらず、緊急事態宣言が出されました。必要がないときや急ぎの用事ではないときは外に出るのを控えましょう、とか夜の8時以降は外に出るのを控えましょうということが主な内容です。皆さんに一番関係のある学校生活については、感染防止対策をしっかりと行って続けてくださいということでした。良かったですね。今日こうして皆さんと一緒に三学期を迎えることができたことを本当に嬉しく思います。感染防止のためにしなければならないことについては、始業式が終わった後、担任の先生と一緒によく話し合ってください。

さて、皆さん冬休みはどのように過ごしていましたか。今年は、外に出かけるのを控えて家の中で過ごすことが多かったのではないのでしょうか。校長先生は、箱根駅伝をテレビで見て応援しました。皆さんの中でも「見たよ」という人がいるのではありませんか。箱根駅伝というのは、東京と箱根の間の行きと帰り合わせて217.1kmという長い距離を2日間かけて10人のランナーがタスキをつないで走るというものです。今年の箱根駅伝は、最後の最後で大逆転があって驚きました。ずっと長い距離を走ってきて、最後の10番目のランナーにタスキを渡した時点で、1位と2位の差が3分以上離れていました。校長先生はこれを見ていて、もう優勝は決まったな、ここから逆転するなんて無理だろうと思っていました。最後の1人で3分以上離れているのを逆転するためには、1位の選手の調子がよほど悪くて遅くなってしまっただけではなく、2位の選手が区間で一番早い速さで走らない限りは無理だと思ったからです。まさか、そんなことはないだろうと思っていたのです。しかし、実際にはその「まさか」が起こりました。トップを走っていた選手の表情が苦しくゆがみ、2位の選手は区間で一番早い速さで走り、ゴール直前、残り2kmのところ逆転してしまったのです。

見ていた人の多くが、もう逆転は無理だろうと思っていたのですが、2位でタスキを受け取った選手は決して諦めずに最後まで走り切ったのです。大会終了後に、優勝した駒澤大学の監督さんが、「諦めなければ何が起こるか分からないものだ」と言っていたことが心に残りました。

今日から始まる3学期は、学年最後の学期です。駅伝でいうと最終区間ということです。今の学年のゴールを目指してしっかりまとめを行いましょう。1学期、2学期は何だか思うように過ごすことができなかったなという人でも、諦めなければまだまだ逆転できます。

また、今の学年でのまとめをしっかりと行うだけではなく、次の学年になったら、6年生は中学生になったら、こうなりたいという心の準備もこの3学期の間にしてほしいと思います。

今日は、3学期の始業式です。箱根駅伝の話を通して、今日から始まる3学期の学校生活についての話をしました。これで校長先生の話が終わります。